

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	新型コロナ禍における緊急被災者支援事業
資金分配団体名:	一般財団法人日本未来創造公益資本財団
実行団体名:	熊本県南部豪雨ひまわり亭災害支援ネットワーク
実施時期:	2021年4月～2022年2月
事業対象地域:	熊本県人吉・球磨地方
事業対象者:	令和2年7月豪雨災害による被災者及び事業実施期間に大規模災害が発災した場合、その地域住民

Version 3.2

日付: 2022年3月11日

I. 事業概要

事業実施概要	熊本地震から令和2年熊本豪雨災害で大き役割を担ったキッチンカーは当団体の代表が所属する人吉ロータリークラブが所有するものであり、キッチンカー自体も被災に遭い、老朽化も進み修理等を行いながらの活動で、また災害時のボランティア活動のみという制約もあり、今後、当団体が目指す地域社会の抱える課題解決に活用できる柔軟性がなく、持続可能な地域づくりを実践するためには、新たな多様性とアフターコロナ禍において、食をコンテンツとした地域振興にも寄与するために、新しいキッチンカーを製作。時間が要する復興の為に仮設住宅で、地域ボランティア団体と一緒に、『復興交流会』を開催。コミュニティの活性化を図る。また、発災時は避難者への炊き出し活動を行えるように設備等を購入する。
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	当初課題設定に関しては、妥当であったと思うが、想定した対象者については、新型コロナ感染拡大による制約があり、出勤日数が減り、支援の在り方をその状況に沿って臨機応変に対応してきた。具体的には、復興交流会では人数制限や支援の方法を炊き出しのみではなく、戸別に声掛けしながら支援物資を配布し、安否確認や交流を図った。キッチンカー購入では、当初計画は既製キッチンカー購入を考えていたが、これまでの経験から災害時での実用性を考慮し、小回りがきく軽トラックでのオリジナルキッチンカーを製作。その関係もあり完成が遅れたが、被災者と共に調理・交流できる、私達の理想のキッチンカーができた。今後は、災害時だけではなく、過疎化地域における地域づくりへの支援を行ってきたい。
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	その他	九州圏内との相互支援のネットワークが確立される状態になっている。また、定期的な被災地での仮設住宅等への訪問を行い、被災地でのコミュニティの再構築に取り組み、アフターコロナ禍による新しい生活様式を構築するために、キッチンカーは被災地復興のシンボルとして多くの住民に愛され活用されている。	キッチンカーの製作購入(1台)と被災者への支援活動。 被災地域での炊き出しが定期的に出てくる。 令和4年度以降、九州管内で大規模災害が発災した場合、キッチンカーを活用して支援が出来る体制が整っている。	・出勤日数60回 ・提供食事数3,000食	・出勤回数8回 ・提供食事数500食 (12月まで)	キッチンカー製作に時間がかかり、また新型コロナウイルス感染拡大による、まん延防止等重点措置期間が長引き、人吉市において仮設住宅への立ち入り禁止の制約があったため、出勤日数が予定より減少した。その代案として、人吉球磨の仮設住宅の皆さん一軒一軒にお声かけを中心にしながら、炊き出しに相当する食材として、砂糖、醤油等を被災した地元業者から購入し、被災後全国から届けられた多くの支援物資を整理・分配し、全戸に配布した。その際、人吉市ボランティア連絡協議会や地域づくり団体の皆さんと継続した活動をすることによって、コロナ禍における防災・減災のまちづくりの意識も高めることができた。今回の活動は、人ごとではなく自分事として地域住民が自助・公助・共助の中、活動できたことは、ひとつの成果であった。今後、キッチンカーを活用したアフターコロナwithコロナに向けて、ネットワークを広げて行きたい。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	被災地域において、時間を要する復興の為に、キッチンカーを活用した仮設住宅での炊き出しなどを行い、コミュニティの活性化を図ると同時に、被災者たちのニーズをキャッチするなど持続的、発展的な活動を継続する。また発災時は、九州管内をエリア都市、いち早く被災地へのキッチンカー出動ができる体制作りを構築する。また、SDG s の取り組み目標を達成するために、実践可能な高齢者の見守り活動や住民の健康づくり、子供達への食育活動、地産地消、環境問題と身近な社会問題を行政や民間、中間支援とのパートナーシップにより実現したい。
考察等	今回、この事業を通して、九州圏内の支援団体とのネットワークや地元のボランティアグループ(人吉市ボランティア協議会)や地域づくりの仲間達(熊本県火の国未来づくりネットワーク)との新しいネットワークが繋がり、持続的かつ効果的な活動の展開ができるようになった。災害支援ネットワークの代表である本田のこれまでの地域づくりやボランティア活動が活かされた。今後は、SDG s の取組みにも推進する。

V. 活動

活動	進捗	概要
① キッチンカーの購入	計画通り	使い勝手の良いキッチンカーが完成。
② キッチンカーを活用しての、炊き出し等の支援メニューの構築	ほぼ計画通り	これまでの炊き出しと違った、被災者と共に調理・交流できる日本で初めての自立型キッチンカーの活用
③被災地（主に人吉・球磨地域を想定）の仮設住宅や被災された方々を対象とした定期的な炊き出し等を開催し、被災された方々のコミュニティとネットワークを構築し、被災者のニーズを収集、必要であれば関係機関と連携し課題の解決に取り組む。	ほぼ計画通り	新型コロナウイルス感染拡大により、活動の制約がある中、地元のボランティアグループや地域づくりの仲間と連携し復興交流会を開催、食材は被災した店舗や農家から仕入れ、循環できる経済復興に心掛けた
④九州圏内で大規模災害が発災した場合は、キッチンカーを活用した支援が出来るような体制を構築する。	計画通り	昨年の佐賀県の災害で、炊き出しへ出向くことは出来なかったが、被災者へのニーズを把握し、必要な支援物資を20箱配送した。
⑤ 上記①～④を実施するための事務局の運営	計画通り	九災対で出会った仲間や人吉の災害で支援してもらった仲間達とのネットワークができ、九州圏内での大規模災害の発災時には、いつでも出動出来る体制が整った

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	キッチンカーを通しての被災者支援の活動が、地元新聞記事や報道でも取り上げていただき、コロナ禍にあっても災害時であっても有効であるという認識が広がった。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	事業終了時においても、新型コロナウイルス感染拡大の終息は望める状況ではないと推察する。人吉球磨においては、令和2年7月豪雨災害から雇用問題においても、復興にはまだまだ時間を要するため、失業率もまだまだ高く、経済の低迷に歯止めがかからない状況である。先日も人吉市においても総務省では、過疎地に認定される程御人口減少が進み、益々地域コミュニティの再生や、一日も早い復興に向け地域内外の多くの財政的支援も必要である。仮設住宅の入居者においても、生活再建への格差が生じ、心身共にこれからの支援が必要だと感じている。そこで、この事業後の活動についても被災者のニーズに耳を傾け、これまで培った信頼関係を壊すことなく持続的に活動をしていきたいと考えている。そのためにも、活動資金の調達が必要で有り、関係各位のお知恵を頂戴しながらも、ひまわり亭災害支援ネットワークの独自の経済活動(キッチンカーを使用した地元農産加工を使用したマルシェなど)によってもキッチンカーによる復興交流を続けていきたいと考えている。また、地域づくりにおいても、多種・多彩・多様な有効な活用を図っていき、この事業の目的や意義を忘れることなく継続していきたい。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
人吉市ボランティア協議会	10月～12月、月2回 連携し復興交流会を仮設住宅で開催。入居者のコミュニティの場を提供。
熊本県火の国未来づくりネットワーク	10月1回、12月1回 連携し復興交流会を仮設住宅で開催。入居者のコミュニティの場を提供。
災害支援団体チームうと	10月～12月、月2回 連携し復興交流会を仮設住宅で開催。入居者のコミュニティの場を提供。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	10,413,000	10,068,948	96.7%
	管理的経費	0	0	0.0%
合計		10,413,000	10,068,948	96.7%
補足説明		特になし		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	・人吉新聞(2021/10/23) キッチンカー使い自立支援 ・人吉新聞(2022/1/1) 『復興』と『自立』を両立
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	・キッチンカー ・軽自動車 ・購入備品 ・復興交流会開催のお知らせ広告に掲載
4.報告書等	・実績活動報告書(キッチンカー写真、活動写真) 1部 ・復興交流会チラシ 1部

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	運営委員会に関する規定、役員・会員・非会員の給与等に関する規定規程、倫理規定、(情報開示及び個人情報保護規程含む)、休眠預金等交付金に関する利益相反防止規定、コンプライアンスに関する規程、公益通報者保護に関する規定、経理に関する規程については整備が完了、運用を開始した。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		事業開始前は、会則以外の細かなに関する規定はなく、また経理規定についても、整備はされていたが、実務上の運用と開きがあり、記載内容を十分に実施することができていなかった。今回、設定にあたり、資金分配団体からアドバイスを受け規程の見直しを内部でディスカッションし、リスク項目をメンバーと洗い出した上で、実運用に即した設定を再検討した。
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	今後、ホームページ上での掲載を予定している。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	今後、ホームページ上での掲載を予定している。
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	令和4年度以降の実施を検討している。
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査	団体の監事による監査を実施し、監査報告書の提出を受ける予定
	<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	